

## 昭和59年度事業の概要

本年度実施した各事業の概要を以下に述べる。

### 浅海増養殖試験（継続）

#### 1 ヒラメ標識放流調査

田辺湾沖のヒラメ資源生態把握のため、'84年9月に平均全長15.3 cm、平均体重36.6 gの人工種苗1,703尾を南部川河口に、12月に同じく27.5 cm、256gのもの568尾を沖の島沖に標識放流した。またこのほか、6月に無標識で平均全長6.5 cmの稚魚6,800尾を南部川河口に放流し、調査した。

#### 2 サザエ標識放流調査

前年度に引き続き和歌山市加太地先並びに周参見町里野地先に放流したサザエの追跡調査を行うと共に、新たに6月、'82年産種苗を加太20,000個、里野10,000個放流し調査を実施した。

#### 3 アワビ類放流調査

前年度に引き続き、古座町下田原、津荷地先に'80年11月放流したクロアワビの成長・分散等について調査すると共に、'84年4月串本町和深船波地先に放流されたトコブシについて成長等を調査した。

#### 4 魚病対策指導

本年度の病魚持込み件数は101件あり、これらについて魚病診断を行うと共に魚病についての投与薬剤の種類・量等の対策指導を行った。

#### 5 ブリ類結節症ワクチン試験

海産魚ワクチン開発研究検討会参加試験として、動生協試作ホルマリン死菌ワクチンのモジャコに対する安全性試験を実施した。

#### 6 主要養殖魚類の絶食試験

赤潮発生時の被害防止対策として、マダイ稚魚の絶食の限界と給餌再開後の回復状況を調査した。

#### 7 赤潮調査

日高郡～西牟婁郡日置川町間で発生した赤潮の持込資料について、種類の同定および計数を行い、必要に応じて現場調査を実施した。

### 種苗生産技術開発研究（継続）

#### 1 ヒラメ種苗生産試験

本年度は全長30mmの種苗35,000尾を生産した。またヒラメの種苗生産における体色異常個体出現の原因を究明するため、昭和59年度健苗育成技術開発委託事業に参加し、ワムシ、アルテミアの餌料としての相互補完性および光条件の影響について試験した。また無眼側の体色異常に及ぼす敷砂の影響についても検討した。

#### 2 シロギス種苗生産試験

前年度に引き続いて種苗生産試験を実施した。

### 3 フトミゾエビ種苗生産

前年同様田辺漁業協同組合エビ類研究会と共同で種苗生産を実施した。

### 4 藻類種苗生産

本年度はカジメ56枠、ヒロメ70枠の種苗生産を実施し、カジメ種苗は海域基幹事業および海中造林技術開発に供し、ヒロメ種苗は田辺・湊浦・白浜・周参見・太地・三輪崎漁業協同組合等に養殖試験用種苗として配布した。

### 5 テトラセルミス培養シオミズツボワムシのヒラメ稚仔魚に対する餌料価値の検討

テトラセルミスで培養したシオミズツボワムシをヒラメの仔魚に給餌し、クロレラや酵母で培養したワムシ給餌区とへい死率、成長、白化個体出現率等を比較検討した。

### 海中造林技術開発研究事業（共同・新規）

カジメ・アラメの海中造林の核となる母藻群を作るため、食害防除を施した藻礁を太地地先に投入後、そこへカジメ・アラメの幼芽を展開し、生残・生長・成熟状況を調査した。

### イセエビ大規模増殖場造成事業効果調査（継続）

造成漁場周辺の禁漁区におけるイセエビ刺網による試験操業10回及び漁業者による共同操業12回の漁獲物調査を行い、造成漁場の効果を検討した。

### 組織的調査研究活動推進事業（国補・継続）

58～59年度の2ヶ年にわたり、日高郡美浜町の美浜・三尾の2漁協を対象に漁業の実態調査を実施し、問題点を摘出すると共に振興方策を検討した。

### マダイ配合飼料実用化試験（継続）

'82年から始めたペレット区が終了し、'83年から始めた生餌、沿岸ミール主体のペレット区、高タンパクのモイスト区は継続飼育を実施している。また、今年度から価格を下げるよう配合した2区、オレゴンタイプペレット区の試験を開始した。

### サザエの成熟・産卵に関する研究（国補・新規）

サザエ種苗生産の隘路となっている採卵技術を確立する目的で、天然産と陸上池飼育サザエについての成熟状況調査を行い、産卵誘発刺激方法を検討すると共にサザエに関する既往知見の整理を行った。

### 回遊性魚類共同放流実験調査事業（国補・継続）

白浜・南部・印南漁業協同組合が受託実施したマダイ稚仔の中間育成について飼育指導および魚病関係を担当した。3組合で250,000尾を受け入れ、38～94日間飼育して約134,000尾を放流した。

### 海域開発基幹事業（国補・継続）

前年度に引き続き、同事業により設置された海中施設にカジメ・ホンダワラ藻場を作る目的で、はえ縄方式によりカジメ母藻を展開し、またホンダワラ類の母藻をコンクリートブロックに結着して施設中に投入し、経過を観察・調査した。

### 魚病等実態把握指導等事業（国補・継続）

水産庁の魚病対策事業に基づき、魚類防疫対策事業として魚病の発生予察、流行伝播防止を目的に、防疫対策定期パトロール、重大魚病発生時の緊急対策、種苗の魚病検査、魚病発生防止対策、

魚病講習会を実施し、また水産用医薬品指導事業としてブリ筋肉中の医薬品残留検査を実施した。

**関西国際空港関係**

関西国際空港建設計画に関連して、日本水産資源保護協会の委託により報告書とりまとめについて検討した。